

岡山県立総社高校

令和4年度より総社高校が単位制に移行します。
(総社南高校も令和4年から単位制に移行)。今回は、単位制とは何か、単位制に移行するメリット及びデメリットについてみておきたいと思います。

まず『単位制』に対しては『学年制』があります。
『学年制』とは、学年ごとに取得すべき単位が決まっています、当該学年で決められた単位を全て取得しなければ次の学年に進む(進級認定と言います)ことができない制度です。これに対して、『単位制』とは、学年ごとの取得すべき単位数を決めず、単位を落としても次学年に進ませて、卒業までに、必要な単位数全てを取得すれば卒業することができる制度です。『学年制』も『単位制』も結局卒業に必要な総単位数は同じですが、学年ごとに取得すべき単位数が決まっているのが前者で、一方、どの学年で取得しようが構わないというのが『単位制』というわけです。もっとも『単位制』の場合でも、例えば1年次と2年次で総取得単位を全て取ったとしても、2年終了時に卒業することはできません。3年間は在籍する必要があります。

『単位制』の特徴としては、高校卒業後の進路が決まっている場合に、それに必要な科目を自分で決めることが可能な点があげられます(もちろん、卒業に必要な総単位数が決まっているために、進路先に必要な科目だけの取得単位数ではそれに満たない場合もあります。その場合には、別途、それを補填するために、必要でない科目の単位も取る必要があります)。ただし、卒業後の進路が決まっていない場合には、不必要な科目を取りがちで、結局、卒業までに無駄な科目を相当数取ってしまう可能性があります。

『単位制』の特徴の2つめとしては、「加配」が行われるという点が挙げられます。各学校の教職員の数(定数)というのは、通常、基礎定数といって、学級数や児童・生徒数などによって機械的に算定されています。しかし、児童・生徒側の問題に対処する必要がある特別な場合や、多様な教育を行うための教育課程の編成について特別な事情がある場合などには、上記基礎定数に、加配といって、教職員の数を増やすことが可能となっています。教職員数が増えればそれだけ細かい教育指導が可能となります。『単位制』の場合には、この後者の「多様な教育を行うための教育課程の編成」にあたり

では、総社高校の場合に単位制に移行することで具体的にはどのようなコース編成になるのでしょうか。

これまでの普通科は、2022年度(令和4年度)より、

- ① 特別進学型
- ② 総合進学型(課題研究タイプ・基礎徹底タイプ・芸術スポーツタイプ)
- ③ 習熟度別少人数授業(国数英で、それぞれ基礎、標準、発展に分かれる)

に分かれ、それぞれの型では、
に再編成されます。加配によって細かい教育指導が可能になると、このようにクラスを細分化することが可能となるのです。

ところで、2021年令和2年の総社高校の進学実績は以下のようになっています。

阪大	1名	同志社	1名
北大	1名	立命館	1名
筑波大	1名	関西大	2名
大教大	1名	京産大	5名
岡大	8名	龍谷大	4名
香大	2名	甲南大	2名
愛媛大	1名	近畿大	3名
鳥取大	8名	清心女大	6名
島根大	7名	岡山理大	53名
高知大	1名	川福大	37名
岡山県大	7名	武庫女大	7名
鳥県大	2名	吉備国大	13名
新見公大	1名	山陽大	11名
福山市立	3名	作陽大	11名
尾道市立	3名	就実大	24名
下関市立	1名	ほか	

3年後の単位制初の卒業生がこの結果をどのように変えていくのが期待されます。